

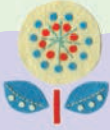
手足の不自由な子どもたち

平成30年度/No.384



はげみ 2/3

February—March



特集

新段階の医療的ケア



第36回肢体不自由児・者の美術展入賞作品「一歩」

森山 彩乃 (13歳)

はげみ

平成30年度
2・3月号

はげみ通巻384号



目次

広場	チャレンジ！ 医療的ケアの新たな道を開く智恵と勇気を……………	飯野 順子… 2
特集	新段階の医療的ケア	
総論	医療的ケアについての基本的事項など……………	北住 映二… 4
各論1	学校における医療的ケアの実施の現状と課題……………	菅野 和彦…15
各論2	特別支援学校での人工呼吸療法～千葉県における実践内容～…………	石井 光子…24
各論3	在宅人工呼吸療法の多様性……………	山口 直人…34
各論4	1型糖尿病児のケア……………	堀川 玲子…39
各論5	在宅における医療的ケア……………	木内 昌子…44
各論6	重症心身障害児や医療的ケア児が通う「障害児保育園ヘレン」 の取り組みについて……………	森下 倫朗/中村 ときわ…51
各論7	地域通所施設での医療的ケア……………	庄司 七重…56
各論8の①	重症心身障害者を受け入れているグループホームでの 調査から……………	山本 雅章…62
各論8の②	夜間も看護師が勤務しているグループホーム特定非営利活動法人 とっもろう……………	飛田 悦子…66
各論8の③	夜間は看護師がいないグループホーム……………	橋本 真一…68
トピックス	第37回「肢体不自由児・者の美術展／デジタル写真展」の開催 ……	72
今号の表紙	……………	森山 彩乃…78

チャレンジ！ 医療的ケアの 新たな道を開く 智恵と勇気を

特定非営利活動法人地域ケアさぼーと研究所 理事長

飯野 順子

1 子どもの心に寄り添う医療的ケアを

授業は、子どもが主人公の子どもが輝く舞台です。子どもは、学びたいと思っています。学ぶことは、生きる喜びです。このような子どもの根源的な願いや思いを叶えることが、学校の役割です。医療的ケアの課題は、高度な医療ニーズに対応する新たな段階になりました。今、求められていることは、「医療的ケアは、特別なこと」「人工呼吸器は、生命に関わる大変なこと」として、医療的ケアの必要な子どもを特別視しがちな状況や、「なぜ、学校で高度な医療的ケアに取り組むのか」という教員の疑問や不安を、これまでの歴史に学び、「実践の智」を積み重ねて払拭し、新たな道を拓くことです。そのため、「子どもの心に寄り添う医療的ケア」として、次のような再構築が必要です。

① 子どもの主体性を尊重した医療的ケアは、子どもが自分の体と向き合い、体がどのような状態にあるのか、体との対話のときです。たとえば、たんの吸引をして、すっきりした体になったとわかることは、自己受容・自己

理解・自己管理する力を育てることにつながります。新学習指導要領の自立活動には、「児童生徒が目標を自覚し、意欲的に取り組んだことが成功に結びついたことを実感できる指導内容にすること」とあります。医療的ケアも、自己を肯定的にとらえ、自己に対する肯定的な自己イメージや自己有能感を育てるようにします。これは、医療的ケアを、自立活動につなげるカリキュラム・マネジメントの視点でとらえることです。

② 「吸引しようね」などの言葉かけは、子どもが医療的ケアを受け止め、吸引に向かう姿勢として心と体の準備を促す予告刺激です。終わったら褒めるなど、始まりと終わりを伝えて、見通しを持たせるなどのコミュニケーション関係構築することも大切です。

③ 授業での子どもの集中力には、一定の限度があります。そのため、授業では、子どもが集中力をリセットし、新たに授業に向かう姿勢をつくる「間」と「ゆとり」を設けます。その「間」を、子どもが学習内容を受け止め、子どもなりに考え、整理する時間帯とします。たんの吸



引などは、この「間」に位置づけられます。このような工夫は、医療的ケアによって授業が途切れるという教員の悩みや仲間はずれや特別扱いという子どもへのプライドを損ねることのない授業づくりの工夫です。

2 より一層の看護師との協働を！

授業観察のために教室に入ると、あたたかく見守るように子どもを注視している方がいます。「細やかな目と優しい手」の看護師です。平成16年度に「違法性の阻却」による教員の限定的実施が許容された際、「看護師の常駐」が条件でした。全国的な看護師配置の始まりです。当初は看護師から学校と病院のシステムや文化の違いに戸惑う声が多く寄せられました。看護師が医療的ケアを「処置」と表現したり、タオルで手を拭くと「不潔」と注意されるなど、教員にも戸惑いがありました。それから十数年、今では、エアタオルの設置、手指消毒の徹底等医療安全面の環境整備が行き届いてきています。ある教室には、注入スタンドが、一人一人分、全部で6本おいてありました。そこには、「個別のマニュアル」「聴診器」「メトロノーム」「注入チューブの固定テープ（適宜な長さにカット）」「薬液吸入カード（イラスト入り・該当者）」などが下げてあり、自然体のスムーズなケアが実施されていると感じました（図）。看護師が準備するそうですが、協働の1つの形態です。

平成28年度から人工呼吸器などの高度な医療ニーズへの対応が事業化され、看護師の担う役割が大きくなりました。特別支援学校の看護師は、医師が常駐していない状況下で、医療に関する状況に応じた的確な判断力を持ち、判断の根

拠が示せる力量が必要です。また、子どもの変化に気づく観察力、バイタルサインや子どもの状態から、医療的ケアの対応の必要性や状態をアセスメントする能力も必要です。求められている能力を磨くために、看護師にとって、研修は「いのち」です。その機会と場の拡充を望みます。

【参考】久保田牧子「第12回看護師（特別支援学校）スキルアップ講習会」資料



図